

Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2010
Spring

第3号



石川県地域医療支援センター

石川県における地域医療の充実に向けた取組について

石川県では、医師確保や救急医療の確保など、地域医療の課題を解決するため、平成22年に国から交付された「地域医療再生特例臨時交付金」の活用をはじめ、県内医療の充実に向けた取り組みを強化していきます。



平成22年度当初予算

医師の養成や臨床研修医の確保に対する支援

緊急医師確保修学資金の貸与による
県内勤務医師の養成支援 ← 36,000千円

金沢大学医学類特別枠入学者への貸与
(新規枠5人→10人) **拡**

国の医学部定員の増員計画に基づき、金沢大学医学類特別枠10人の入学者に修学資金を貸与することにより、地域医療を担う医師の育成及び確保を図る。

地域医療を担う医師の養成に向けた
教育・指導体制の研究 ← 30,000千円

平成21年度より金沢大学医学類に設けられた特別枠の入学者を中心に、将来の地域医療を担う医師の養成とその県内定着を図っていくための方策について、金沢大学に寄附講座を設置し、研究を行う。

全国的に著名な指導医による
臨床研修病院の指導体制の強化 ← 1,800千円

全国的に著名な指導医を各臨床研修病院に招聘し、講義及び意見交換を行うことにより、臨床研修病院の指導体制の強化を図る。

臨床研修医等の確保に向けた
シンポジウムの開催 ← 1,448千円

県内での臨床研修医や後期研修医としての就業を働きかけ。

退職医師・UIターン医師等の確保

県ゆかりの著名医師の協力による
県内勤務医師確保の取り組み ← 1,500千円

能登北部地域での
医療機関との情報交換・交流 **新**

医師不足が深刻な能登北部地域の医療提供体制の確保を図るため、「ふるさと石川の医療を守る集い in 能登(仮称)」を開催し、「ふるさと石川の医療大使」をはじめ首都圏ネットワーク関係者、県内医療機関関係者等が能登北部地域に参集し、現地の医療機関を視察するとともに情報交換・交流を図る。

地域医療人材バンクの充実 ← 1,000千円

地域医療人材バンクへの登録や情報提供を求めるチラシの作成・配布及びUIターン希望医師を個別訪問し、県内就業に向けた勧誘を実施。

女性医師の仕事と子育ての両立支援

女性医師支援センターの運営 ← 2,000千円

医師不足の中、近年増加する女性医師が産・育児で離職せず引き続き勤務を続けられるよう、相談窓口として石川県女性医師支援センターを設置し、復職に向けた支援を図る。

医師不足地域における医療の確保

能登北部地域医療協議会への支援 ← 1,000千円

能登北部地域における医療提供体制の維持・強化を図るため、医師の確保や救急医療等の医療連携体制の構築等を協議。

大学関係者による地域医療の
確保に向けた研究等に対する支援 ← 3,000千円

医療人の養成と確保を担う金沢大学附属病院を支援することにより、県民の医療の確保と健康の保持を図る。

特定診療科(小児科・産科・麻酔科)の医師の確保

地域医療支援医師修学資金の貸与 ← 12,000千円

県内の医師の不足している地域における必要な医師の育成及び確保を図るため修学資金を貸与。

病院勤務医師の勤務環境改善

救急勤務医手当、分娩手当の
支給に対する支援 ← 87,600千円

救命救急センター等の三次救急及び二次救急医療機関に勤務する医師の処遇改善を図るため、休日・夜間において新たに救急勤務医手当(宿日直手当や超過勤務手当とは別)を支給する医療機関に対し助成。産科医等の処遇改善を図るため、分娩手当を支給する分娩取扱機関に対し助成。

救急医療提供体制の強化

医師による
小児救急対策出前講座の開催 ← 1,200千円

子ども(6歳程度まで)の保護者を対象に、市町の子育て支援事業や保育所等の行事(保育参観等)に併せて、小児科医を講師として、子どもの急病等の対応や救急の利用等についての講演・意見交換を行う出前講座を開催し、保護者の安心感を確保するとともに適正受診のあり方を考える契機とする。

地域医療再生計画

【計画期間】

平成22年度



平成25年度

(4年間)

【基金の設置】

国は、地域医療再生計画の内容を認定し、計画の実行に必要な費用を「地域医療再生臨時特例交付金」として県に交付。

県は交付金を財源とし、基金を設置。

【基金の規模】

50億円

2医療圏×25億円

【計画を策定する医療圏】

「能登北部医療圏」及び「南加賀医療圏」を選定する。

選定理由

- ・人口あたりの医師数が少ない。医師数が減少傾向にある。
- ・南加賀医療圏では、救急病院が減少(12か所[H15]→8か所[H21])し、医療圏外への搬送が増加するなど、救急医療体制に課題を抱えている。

計画における主な施策

【医師確保対策】

<共通>

- ・医師確保調整会議(仮)の設立
- ・医師確保の仕組みの構築のための寄附講座
- ・後期研修医等を対象とした研修支援制度の創設
- ・派遣医師への支援
- ・「ふるさと石川の医療大使」を中心とする首都圏ネットワークを活用したUIターン医師の確保など



ふるさと石川の医療大使の委嘱
(平成21年7月12日)

- ・石川県女性医師支援センターの機能強化



女性医師支援セミナーの開催
(平成21年8月8日)

【看護師確保対策】

<共通>

- ・離職者の再就職支援
- ・新人看護職員卒後研修の実施、院内保育所の整備など勤務環境改善
- ・看護師等学校養成所の実習環境の整備
- ・**<能登北部地域での取組>**
- ・看護師等修学資金貸与制度(地域医療支援枠)の拡充

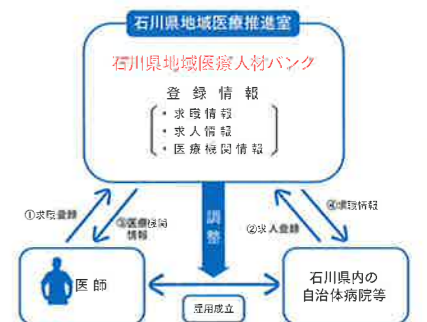
【地域医療連携対策】

<共通>

- ・石川中央医療圏における周産期医療・救急医療体制の強化
- ・診療情報の共有化
- ・**<能登北部での取組>**
- ・脳卒中医療・急性心筋梗塞医療・リハビリ等の医療機能の強化
- ・公立4病院で共通の電子カルテシステムの導入
- ・**<南加賀での取組>**
- ・救急医療ネットワークの構築
- ・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病等の地域連携体制の構築

石川県地域医療人材バンクではUIターンを希望する医師の皆様のご登録をお待ちしております。

【お問い合わせ・連絡先】石川県健康福祉部地域医療推進室
TEL.076-225-1449 FAX.076-225-1434
E-mail iryoujin@pref.ishikawa.lg.jp



石川県地域医療再生計画の概要

医師確保対策・救急医療対策等に重点化

南加賀医療圏

(救急医療対策・周産期医療対策等に重点化)

課題

- 救急告示病院が減少する中(H15:12カ所→H21:8カ所)で、医療圏外への救急搬送が多くなっている。
- 南加賀医療圏の病院に勤務する医師が減少し地域医療の維持に課題を抱えている。【南加賀医療圏の全病院の常勤医師数▲5人(H21-H15)】
- 脳卒中や急性心筋梗塞などの疾病ごとに地域の医療機関の連携強化が求められている。

実施後

地域医療再生計画「医師確保調整会議」(仮)

石川県地域医療支援センター



救急医療・周産期医療のバックアップ

脳卒中診療のネットワーク

急性心筋梗塞診療のネットワーク

糖尿病診療のネットワーク

看護士の確保

救急医療体制の強化

地域連携を推進するIT基盤

勤務環境改善(医療クラーク、院内保育)

周産期医療等の体制強化

女性医師支援

医師派遣機能の強化

寄附講座

研修支援制度

派遣医師のバックアップ(TV会議システムなど)

脳卒中・急性心筋梗塞等で専門的な治療を要する患者

ミドルリスク妊婦・新生児

救急医療・周産期医療の連携強化

ハイリスク妊婦・新生児

高度専門的な治療を要する患者

周産期医療体制の強化など

医師派遣機能の強化

石川県地域医療支援センター・金沢医科大学

寄附講座

研修支援制度

派遣医師のバックアップ(TV会議システムなど)

能登北部医療圏

(医師確保対策・救急医療対策等に重点化)

課題

- 常勤医師が減少し、地域医療の維持に課題を抱えている。能登北部4病院で▲11人(H21-H15)
- 能登北部4病院間で機能分化と連携が必ずしも十分ではない
- 救急医療・周産期医療等において、他の医療圏との連携強化が求められている。
- (能登中部・石川中央医療圏の体制強化も必要)

能登北部地域医療協議会

機能分化(脳卒中、心筋梗塞、リハビリ、在宅療養支援など)

看護士の確保

連携(共通の電子カルテ、診療情報の共有化)

住み慣れた地域・在宅へ(地域連携パス)

勤務環境改善(医療クラーク、院内保育)

脳卒中・急性心筋梗塞等で専門的な治療を要する患者

ミドルリスク妊婦・新生児

救急医療・周産期医療の連携強化

地域医療再生計画「医師確保調整会議」(仮)

ハイリスク妊婦・新生児

高度専門的な治療を要する患者

周産期医療体制の強化など

医師派遣機能の強化

臨床研修病院

大学

石川県地域医療支援センター・金沢医科大学

寄附講座

研修支援制度

派遣医師のバックアップ(TV会議システムなど)

実施後

医師派遣の仕組みづくり

石川中央 → 能登北部
石川中央 → 能登中部 → 能登北部

～地域で小児救急医療を守るために～

「医師による小児救急対策出前講座」の開催

近年、夜間・休日に医療機関を受診する小児患者が多く、小児科医等の負担が大きくなっています。石川県では、従来から夜間小児救急電話相談を開設し、保護者が電話で小児科の医師等に相談できる取り組みを行ってきました。

平成21年度は新たに、石川県小児科医会の協力の下、子どもの急病時の救急受診を含めた対処法や医療の現状などについて小児科医から講話をいただく出前講座を県内18ヶ所で開催し、延べ約900人の保護者の方に参加いただきました。



中能登町立あおば保育園
(恵寿総合病院 中谷茂和先生)



かほく市子育て支援センター
(北谷クリニック 北谷秀樹先生)

平成21年度実施状況

開催日	実施機関	講師
8月8日	七尾市立田鶴浜保育園	さはらファミリークリニック 池崎綾子先生
8月26日	宝達志水町子育て支援センター	恵寿総合病院 中谷茂和先生
9月16日	中能登町立あおば保育園子育て支援室	恵寿総合病院 中谷茂和先生
9月17日	かほく市子育て支援センター(七塚勤労青少年ホーム内)	金沢医科大学病院 藤木拓磨先生
10月7日	かほく市子育て支援センター(愛・遊・館内)	北谷クリニック 北谷秀樹先生
10月17日	白山市立富光寺保育所	むとう小児科医院 武藤一彦先生
10月21日	野々市町子育てあんしん課	浅井小児科医院 浅井恭一先生
10月24日	小松市こばと保育園	荒木病院 谷内真由美先生
10月24日	津幡町立井上保育園	金沢医科大学病院 藤木拓磨先生
10月25日	小松市安宅保育園	小松市民病院 上野良樹先生
11月7日	羽咋市とき保育園	金沢大学附属病院 斉藤剛克先生
11月10日	輪島市立河井保育所	まるおかクリニック 丸岡達也先生
1月21日	NPO法人おやこの広場 あさがお(白山市)	斉藤小児科医院 斉藤建二先生
1月23日	金沢市こども福祉課	国立病院機構医王病院 奥田則彦先生
1月23日	志賀町立志加浦保育園	公立能登総合病院 和田英男先生
1月23日	能登町松波保育園	まるおかクリニック 丸岡達也先生
3月13日	七尾市やまと保育園	公立能登総合病院 和田英男先生
3月24日	加賀市わかたけ保育園	金沢大学附属病院 太田邦雄先生



野々市町情報交流館カメリア
(浅井小児科医院 浅井恭一先生)



津幡町立井上保育園
(金沢医科大学病院 藤木拓磨先生)



小松市安宅保育園
(小松市民病院 上野良樹先生)



羽咋市とき保育園
(金沢大学附属病院 斉藤剛克先生)



志賀町立志加浦保育園
(公立能登総合病院 和田英男先生)



加賀市わかたけ保育園
(金沢大学附属病院 太田邦雄先生)

「明日の石川の医療を担う若手医師の集い」の開催

主催：石川県・石川県臨床研修推進協議会

石川県と石川県臨床研修推進協議会は、研修医の地元定着を図るため、平成22年2月、臨床研修病院合同説明会「明日の石川の医療を担う若手医師の集い」を開催しました。

前年に引き続き第2回目の開催となったこの集いには、石川県ゆかりの医学生や県内12の臨床研修病院の関係者など約200人が一堂に会し、各病院の特色や研修プログラムなどについてのプレゼンテーションや、各病院ブースでの個別相談が行われ、会場は熱気に包まれました。

また、女性医師のキャリア形成のあり方等について「石川県女性医師支援センター」による相談も行われました。



平成22年2月／於ホテル金沢

将来の地域医療を支える医師の養成



金沢大学特別枠及び自治医科大学の合格者と知事との懇談(平成22年3月24日)～知事が12人を激励～



国の緊急医師確保対策に基づき、平成21年度入試から新設された金沢大学特別枠の定員が、平成22年度より更に5人拡充され、10人の合格者が平成22年2月に決定されました。

県では、特別枠入学者に対して、「緊急医師確保修学資金貸与制度」による修学資金(年間240万円を6年間貸与)を貸与し、卒業後の地元定着に繋げていくこととしています。特別枠合格者の決定に際して、県では、金沢大学への出願前に志願者の面接を行い、地域医療に長期間にわたって貢献する志などを十分に確認し、大学に推薦しています。

特別枠入学者は、卒業後、金沢大学附属病院で2年間の臨床研修を行い、その後の7年間、県内の公立病院等に勤務しながら、地域医療に貢献しつつ専門医の習得を目指すこととなっています。

金沢大学では、特別枠入学者を本県の医療をリードしていく指導的人材として養成していく方針であり、県では、平成21年度に、特別枠入学者などの養成や県内定着に向けた方策について研究する寄附講座を金沢大学に設置しました。

地域医療を支えるドクター紹介

Hello Doctor!



市立輪島病院

産婦人科 医長

あおやま こうや
青山航也先生

1975年砺波市生まれ。金沢大学医学部卒。金沢大学産婦人科入局後、富山市民病院、富山県立中央病院、厚生連高岡病院を経て、平成17年8月より市立輪島病院勤務。

KOUYA AOYAMA



医師として一番大切にしていることは、患者さんとの信頼関係です。

■自ら志願して輪島病院に赴任した

全国的に産婦人科の集約化が進む中、一人医長を自ら志願し5年前に輪島病院に赴任しました。赴任する前の1ヶ月間は産婦人科の常勤医がいなく分娩休止の状態でした。1ヶ月という短い間ですが、その影響は大きかったと思います。いつまた分娩休止になるのか不安があると、地元の妊婦さんが安心してかかれなくなります。赴任して2～3年は輪島の方が穴水や七尾で分娩される方も多かったのですが、最近は当院でお産される方が増えてきています。分娩件数は平成19年が116件で、平成21年で157件となっています。体力的には200件ぐらいい分娩をこなす余裕があるかなと思っています。

医師として大切に思うのは、やはり患者さんとの信頼関係だと思います。病院に行けばいつも同じ医師が診てくれることで患者さんは安心できます。

外来で診察する医師と分娩に立ち会う医師が違ったり、1年毎に担当医師が変わったりすれば、患者さんとの信頼関係を築きにくくなります。

また、診察の最後には「何か聞いておきたいことはありませんか」と必ず付け加えます。どんな質問にもきちんと答え、その場で分からなければ後で調べて説明するようにしています。

■一人医長の利点は迅速かつ柔軟に対応できること

現在、輪島市と連携して妊婦さんとその家族の禁煙支援に取り組んでいます。健康な赤ちゃんを産み、子どもにきれいな空気を吸わせてあげたい。外来で30分以上かけて話をし、禁煙していただけた時には非常にうれしくなります。

地域の方のために迅速で柔軟に対応できることが一人医長のよいところだと思います。



わたしたちは「地域医療」に情熱と志をもって活躍している医療人を応援しています。県内の地域医療の現場で勤務する医師の皆さんの声をご紹介します。

地域医療を経験して…

DAISUKE SAITO



金沢大学附属病院 研修医
地域保健・医療研修：珠洲市総合病院

齋藤大輔 先生

さいとう だいすけ

地域連携の重要性を
改めて痛感しています。

体で知る、地域医療の今

ちょうど今、2年間の研修を3月末で終えるところです。1年目は石川県立中央病院で、2年目は母校の金沢大学附属病院で研修し、地域医療を学ぶために昨夏の1ヶ月を珠洲市総合病院で過ごしました。地域医療について少しは知っているつもりでしたが、聞くのと見るのとでは違いますね。珠洲で最前線の現場に立てて本当に良かったと思います。大学病院は紹介の患者さんばかりですから、大体どんな疾患か、来院時に予測がつかれていることが多いのですが、それに比べると地域の病院は、紹介もなく直接来て症状を訴える患者さんが大勢いますし、急患もひっきりなしです。初診の際に患者さんから話を聞き、そこから鑑別していくわけで、診療の最初の段階で話を正確に聞き出すことがいかに大切であるかを、珠洲で身を持って勉強しました。

同時に、地域医療の現実も目の当たりにしました。ある患者さんの例ですが、入院中に急に「胸が痛い」と訴えて意識を失ってしまったのです。心筋梗塞らしいと診断されたものの、珠洲では心臓カテーテル治療が行えません。車で1時間以上も離れた七尾市まで搬送されて事なきを得ましたが、病院内で治療できたらずと少し残念に思いました。医師をはじめ医療従事者が絶対的に不足しているし、専門医



PROFILE
・石川県出身(金沢大学医学部卒)
・平成20年度金沢大学医学部附属病院
初期臨床研修プログラムII(地域医療連携実践コース)
1年次：石川県立中央病院
2年次：金沢大学附属病院
地域保健・医療：珠洲市総合病院

患者の声に耳を傾ける医師に

珠洲市総合病院の患者さんは長年通院している方が多く、患者さんと医師・看護師との距離が一段と近かったように思います。人と人の距離の近さは病院に限らず、近所の銭湯などでも感じられましたし、祭りの時に初対面の方の家でご馳走になるという経験もしました。祭りはすばらしいし、食べ物はおいしいし、自然は豊かだし…。能登の魅力をいろいろ発見できて楽しい日々でしたね。

また、先輩医師や看護師さんから学んだことも多かったです。珠洲市総合病院は珠洲唯一の総合病院なので、屋となく夜となく患者さんが来院し、スタッフは多忙を極めていきます。それなのに、どんな時でも患者さんの話にじっくり耳を傾けていらっしゃる姿に感心しました。

私は外科医志望ですが、外科医といえども手術だけしていればいいわけではありません。将来は患者さんの話をしっかり聞ける外科医になりたいと、諸先輩の背中を見ながら思いました。珠洲市総合病院での研修で知ったのは、地域の病院は確かに苦勞も多いけれど、その分やりがいも大きい、ということ。今は未熟なのですぐにはいきませんが、技術をしっかり身につけたなら、いつか能登の病院で頑張ってみるのもいいなと考えています。

医療のいろはを
体得しつつ、
能登の暮らしも
楽しんだ日々